

アメリカ農業研修スナッフ写真

II とうもろこし(JX社)

札幌研究農場 山下 太郎



ミネソタ州におけるJX社<子実用>品種展示園
(現地収量試験も兼ねている)

JX社はこのような現地圃場をサイレージ用を合せ10州140個所に設けており、大きな種苗会社いづれも同様である。



育種圃場

優良自殖系統の育成、及び試験交配が広大な面積を使い組織的に行なわれている。



耐倒伏性検定試験

倒伏要因は数多くあげられ、その中で特に病虫害による倒伏抵抗性は接種試験をとおして検定・確認が行なわれていた。



ニューデント系品種(JX社)の採種圃場

収穫後の状況ですじになって残っているのが花粉親(雄)である。



サイレージ用品種

サイレージ用品種は総収量が高く、しかも雌穂の登熟(ドライダウン)が早く、茎葉の緑度保持期間(スティググリーン)が長いことを目標に育成されている。



低温発芽試験

低温多湿条件下で一週間前処理を行ない、その後、通常発芽試験温度へあげる方法で、より実際栽培に近い発芽率が得られる。又、低温発芽性の検定にも応用されている。